

視察報告書

令和 7 年 9 月 16 日

貝塚市議会議長 阪口芳弘 殿

大阪維新の会 貝塚市議会議員団 長谷川 博文
中川 剛
蓮池 陽佑
中西 真知子
八野 裕嗣

日時：令和 7 年 8 月 19 日 10 時 00 分～12 時 00 分

場所：おにクル

テーマ：おにクル視察について 報告者 蓮池陽佑

【施設概要】

市民会館跡地の土地活用としておにクル（文化・子育て複合施設）を国の都市構造再編集中事業を活用し整備（令和 5 年 11 月 26 日共用開始）



平成 27 年に茨木市民会館が老朽化・耐震性不足等を理由に閉館。その跡地利用に関し隣接する福祉文化会館、中央公園を含めて茨木市のまちの中心エリアとして活用方法の検討が始まる。当該検討に関しては市民参加型として、「市民会館 100 人会議」とした無作為抽出した市民 5,000 人に参加依頼、10 人×10 回で合計 99 人と市長が直接対話、「ハコモノ」にしないようゼロベースで市民との対話を基本に徹底的なプロセス重視で進められる。

さらに本事業のキーコンセプト「育てる広場」を実現するため、市民の意見を聞くことは勿論、市民が実際に自分たちで「試してみる」という社会実験を同時に展開、2018 年には第一期社会実験「IBALAB」として芝張りから企画づくりまでを市民主体で実施する。2020～2025 年にかけては第二期社会実験「IBALAB@広場」として同じく市民主体の様々な企画を実施、社会実験としての市民参加のワークショップは合計 108 回、参加者延べ人数は 2,217 人にも達した。市民の多彩な意見・想いを汲んで整備された当施設は、屋内こども広場・図書館、プラネタリウム以外にも、こども支援センターや市民活動センターも備えており、現在進行形で茨木市における文化子育て複合施設として、市民の皆様とともに成長（整備）が進んでいる。

行政施設跡地の活用及び市民文化会館の運営方法について、先進事例を学ばせて頂いた。